

市との友好交流事業を実施されることになりました。

霊光郡との交流では、国際交流のきっかけになればと、平成23年度には市民の皆様を対象にしたハンダール語講座を開設し、25人の方に受講をいただいています。

歴史的、風土的背景がきっかけで始まったこの4都市との交流事業ですが、現在市民の皆様の自主的な参画のもと、交流事業ができるようになってきたのではないかと思っています。

このような市民の皆様の積極的な参画による交流の広がりを大切にし、人的な交流だけでなく、物流などの交流も併せて支援策を検討していきたいと考えています。

今後、この4都市との交流についてはさらに友好関係を深め、その関係を継続発展できるように努めていきます。

財政運営

問 基金積立金について

答 当市の財政調整基金については、合併後3年

間は財源不足を補填するため毎年取り崩しを行い、平成19年度末には約3億円にまで減少しましたが、平成20年度以降においては基金を取り崩すことなく、また決算剰余金のうち可能な範囲で積み増しを行うことができるようになり、今回の補正予算計上額を合わせる約30億円になる見込みです。

一方、地方交付税は、平成27年度から5年間で毎年2億円から3億円ずつ減少し、平成32年度以降は、現在より約15億円以上少ない水準になる見込みです。

この合併における特例措置が終了したときのことを踏まえて、当面の目標としていた30億円を確保することができましたので、これ以上の積み増しについては、その時々々の財政状況や社会情勢の変化などにより対応していきたいと考えています。

また、現在、学校施設の耐震化整備を順次実施をしています。今後においては公民館、保育所などの建て替えや耐震化工事が見込まれるほか、道路、橋りょう、

公園、下水道処理施設などの長寿命化対策も必要になってきます。このような状況に対応することが公共施設等整備基金創設の理由であります。現在、これら多くの公共施設の中から当面整備を必要とする施設の調査に着手し、平成25年度中には、整備の優先順位など計画を取りまとめ、必要な資金としてできる範囲の中で積み立てていきたいと考えています。

高速通信整備

問 市内の状況及び拡充について

答 市内での有線による高速回線の配線状況は、NTTの交換局として光サービスを実施しているのは2局だけであり、その他ケーブルテレビのインターネット接続サービスがあります。

一方、市内の97の公共施設に配線している市の光ケーブルのうち、空いている芯線を電気通信事業者に貸し出すことにより、インターネットの接続環境が整備されている地域もあります。

インターネット情報をより速く



高速回線を市の全域に広

げる方法として、*LTEを利用した通信環境の整備をしていただくよう通信事業者に対して働きかけを行ってきています。その結果、今年3月にKDDIから貸し出しの要望があり、市が空き芯線を貸し出すことで、11月から一部地域でLTEを利用したサービスが開始されています。また、今後の予定では、来年3月までには、一部地域でもこのサービスが開始されることとなっております。現在その準備が進められているところです。

市としては、高速通信環境の整備において、市の光ケーブルの空き芯線を貸し

出すことで、高速通信環境の整備・拡大を図っていただけるよう各事業者に強く働きかけ、格差の解消に努めていきたいと思っています。
*LTE：携帯端末の新たな高速データ通信規格

福祉の充実

問 コミュニティソーシャルワーカー及び高齢者見守りについて

答 現在、過疎化や少子・高齢化などにより人口減少が続いている中、当市において新たな制度を創設し、地域支援体制を構築することは人材確保などの課題も多く、コミュニティソーシャルワーカーの配置は困難な状況です。まずは既存の社会の仕組みを充実、発展させることが重要であると考えています。

現在当市には163人の民生児童委員が配置され、地域住民の見守り活動や様々な問題の発見、相談の受付、行政や関係機関との連携等、昼夜を問わず熱心な活動をしていただいています。